

2020（令和2）年度 市長と語ろう「わかものふれあいトーク」

- 日 時 令和3年2月25日（木）午後2時30分～3時30分
- 方 法 オンライン開催（ズーム）
市役所会場：本庁舎2階 秘書課前応接室
- 出席者 阿寒農業協同組合・くしろ西森林組合・釧路市東部漁業協同組合 3名

（あいさつ）

【市長】

本日は本当にお忙しい中、このような時間を取っていただき、どうもありがとうございます。私は、この北海道、そして釧路は、一次産業が基幹産業としてベースになるものと思っております。また、今は、食や環境を担っていくことが、重要であると考えております。つまり、生きていくために必要なものであります。パソコンや、この度のズーム、携帯電話といった通信環境等は増えていくかもしれませんが、これを食べて生きていくわけにはいきません。生きていくために必要なものは、一次産品であり、そして環境であるという観点が大事で、強い産業に発展するよう進めていくことが重要であると考えております。あわせて、釧路市に市民憲章があり、私はこの中の前文が好きなのですが、その中に「生産都市を誇りとして」という表記があります。昔からこの地域が発展したのは、石炭、水産、紙パルプという基幹産業があり、これらを生産都市の誇りとして発展してきたと明記されていることは、先人の気概に触れる機会として考えています。色々と厳しい状況の中、特にコロナ禍も含め、日本製紙の工場の操業停止問題や人口減少等の課題がありますが、命に関わる産業は、絶対に無くなることはないですし、最も重視されるものと考えておりますので、本日、農業、林業、漁業に携わっている皆さんと、このような形でお話ができるということで、皆さんから、色々なご意見を聞かせていただきたいと思いますと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

（自己紹介・活動紹介）

【参加者A】

釧路の山花で、酪農をやっております。よろしく願いいたします。叔父が経営している牧場に入っており、小さい頃から、色々な手伝い等をしていたことがきっかけで仕事しております。今、行っている仕事は酪農ですので、牛の管理があり、搾乳作業等も行っております。この他、地域活動といたしましては、農協青年部の活動もやらせてもらっております。

【参加者B】

釧路市の音別町にあります「くしろ西森林組合」で働いております。組合に入る前は、陸上自衛隊に4年間勤めておりました。陸上自衛隊を辞める際に、自衛隊の方で就職先を紹介してくれる場所がありまして、そこに組合の求人がありましたので、入組をいたしました。仕事内容としては、森林整備関係全般をしております。よろしく願いいたします。

【参加者C】

釧路市東部漁業協同組合に所属し、漁業をしています。メインはホッキ漁で、夏場はツブ漁をしながら生計を立てております。また、青年部の部長をやっております。若者の人数がだいぶ減ってきており、10名程の青年部となっている状況ですが、今後の東部漁協を盛り上げていかなければいけないということを課題としてやっております。

（懇談・意見交換）

【参加者A】

やはり、一次産業は、人の問題が大きいと思っております。もっと若い人がたくさん来てくれたらいいと思っております。そのための活動として、自分たちは、小学校にマンガを寄贈するということをしております。具体的には、「銀の匙」という、農業高校を舞台にしたマンガの作品なのですが、これを小学校に寄贈して、それを読んでもらうことで、農業に興味を持ってもらえたらということで、青年部の活動をしています。釧路市内の学校

への寄贈を終えて、今は、釧路管内の全部で100校ぐらいの学校に向けて、寄贈をしているところです。これからは、北海道全域に広げようということで進めております。若い人がこの業界に入ってくれるような取り組み等を進めるためにも、この釧路地域の魅力を発信したいと思っておりますので、横の繋がりといった形で、他の方々とも一緒に進めていけたらと思っております。

【参加者B】

やはり、一次産業は人が少ないということが第一にあると思います。組合としては、積極的に高校生向けの出前講座を行っております。開催した際には興味を持っていただけるのですが、いざ、働きたいかとなると、きついということや、汚いといったことがあると思います。林業となると、山林等に入りますし、組合の事務所も山林に近いところにあるところが多いですから、通勤についても遠いと感じることもあると思います。自分もそうでしたが、音別ということで、入組をやめておこうかということもありました。このようなことから、今後は、もう少し違う取り組みをしていければと考えております。

【参加者C】

今の漁業は、どうなのだろうかと考えております。海で魚も獲れなくなったり、天候がおかしくなったりして、なかなか狙ったものが獲れない状況です。また、コロナ禍の影響を受けて、魚の値段が安くなる状況で、今、我々が行っていることを、子どもたちに託すということは、なかなか厳しいということが正直な気持ちです。我々も、ぎりぎりな状態で行っている現状であるので、漁業というものは、特殊な商売であると思っているところです。その点、海の変化という状況から、山の木の伐採等も進んでいる中で、やはり、林業の方々と手を組んで、元どおりにはいかななくても、個人的には、植樹等がとても必要になってきているのではないかと考えております。また、漁業・農業については、食材を取り扱うものでありますので、今回、このように知り合えたので、今後、お二人と何かやっていくことができればと思います。

【市長】

先程、Cさんから、水産の厳しさ等のお話がありましたが、本当に変わってきているということがあります。例えば、水産の場合では、15年ぐらい前から、水産庁も含めてですが、それまでの水産行政は、生産者サイドで物事を進め、色々なことを行ってきておりました。その後、消費というものを考えるようになりましたが、生産と消費についての考えの背景にあったのが、水産の自給率です。三十数年前まで100%でしたが、日本の水産の自給率が60%ぐらいに下がった際に、食育を含めて、消費についても取り組むようになっていきます。しかしながら、この数字がなかなか上がらない状況で、その中で、どのように展望を開いていくのかということです。今は、釧路で魚がたくさん獲れていた時の10分の1である約17万トンの漁獲量となっております。また、沿岸の東部海域では、昔のコンブ漁の良かった時代のように生産でき、商売して儲けられるよう、まずは、少しでも生産されるように事業を行っており、何とか、見通しをつけていけたらと思っております。林業についても、釧路市では消費者を意識した取り組みを行っており、川上から川下までということで、山で生産した木材を加工し、どこへ送るかということがあり、生産地でありながら消費地でもある釧路市では、一体にできる取り組みを、少しずつ行っているところです。酪農についても、昨日、根釧酪農ビジョン推進会議が開催され、今まで1,600億円の釧路、根室の農業産出額が、2018年度に2,000億円になったと発表されました。取り組んでいくために、草地更新、新規就農、所得向上の3つの目標を掲げており、特に一番苦しいところが就農です。やはり、どのような産業でも、しっかりと成り立って、儲けることができれば、仕事をする人たちが出てくると思っております。そのように興味を持っていただく活動を、これまでAさんたちに、子どもたちに向けて行っているため、我々がどのように一緒に取り組んでいけるかということがあります。それぞれで発信するものはありますが、我々、行政の持っているチャンネルでも、そのような取り組みを外に出していくことができるのではないかと考えております。今までの行政は、公平にしていかなければならないということで、特定のところとの連携は難しいということがありましたが、私は、地元会社とは、全て連携していけると考えており、ま

してや組合の青年部であれば、色々連携ができ、チャンネルを持ちながら発信し、取り組んでいけると思っております。行政の活用について、何かやってみたいことはないでしょうか。

【参加者B】

ユーチューブ等を使った方がいいかと思います。私の妻の兄がユーチューバーで、北海道の魅力を伝えております。自分からも声を掛けておりますが、釧路の魅力をユーチューバーといった方々とコラボし、伝えていくことができればと思います。興味がある人は見てくれて、他力本願となってしまいますが、その人たちが釧路の魅力をそれぞれ伝えていただければ、少しずつでも魅力は伝わっていくのではないかと思います。

【参加者A】

自分も、酪農のユーチューブを行っております。それこそ、釧路地域の一次産業のユーチューブの人たちが連携したらいいのではないかと思います。例えば、それぞれの人が、それぞれの産業の仕事を体験する動画を撮って、アップをしていくといったことです。他には、最近、一次産業で一番大きいものは、BUZZ MAFF（バズマフ）という農水省のユーチューブがあり、流行っているようです。釧路の一次産業のユーチューブを行っている人たちが組んで、大きな人気のあるところに出演するような働き掛けができれば、地域からの呼び掛けができるのではないかと思います。漁協さんについて、調べてみたのですが、漁業関係の方では、そのようなことを行っている方はいらっしゃらないのですか。

【参加者C】

海の上では、電話を使うことがなかなか難しいですし、携帯電話も海水対応ではないですから、なかなか厳しいところがあります。

【市長】

水揚げの最中とかはどうなのでしょう。

【参加者C】

水揚げの最中は、なかなか厳しいですね。

【市長】

確かに誰かに撮ってもらわなければ難しいのでしょうか。

【参加者C】

そうなりますね。

【参加者A】

我々も魚はわかるのですが、漁業の現場の人たちが、どのような作業をされているのかということが、ほとんどイメージがつかないです。簡単に調べられないことですので、撮るのが難しいというところは問題であると思うのですが、何とかうまく撮ることができたら、その情報は、とても価値があるものになるのではないかと思います。このような話が出たので、やはり互いにユーチューブで発信できたらと思います。今は、色々なところでこのような発信をしておりますから、簡単に人が増えるまではなかなかいかないと思うので、新聞やメディア向けの情報発信を一緒に進めながらできたらと思います。先程、水質汚染の問題や、植林のお話がありましたが、そのような具体的に行っていけるようなことを、あわせて共同で進めながら、情報発信をするといったことができたらいいのではないかと思います。話が前後しますが、漁業で言われている水質の問題は、どのような状況なのでしょう。かなり良くない状況になっている感じなのでしょう。

【参加者C】

やはり、温暖化といったこともあるのですが、昔に比べると海藻類のコンブは減っている状況です。今は、ソーラーパネルがたくさん建ってきており、私たちが育ってきた

場所から、森林が減ってきている状況です。また、千代ノ浦漁港は、私が仕事で使っている漁港であり、漁業者にとっては、とても使いやすい漁港なのですが、周囲はコンクリートである状況です。やはり、昔は、大自然の中に山や木々があったからこそ、魚やコンブにしても、豊富であったのかと思います。普段は、なかなか農業の方や林業の方にお会いする機会がないものですから、植樹であるとか、自分の子どもたちのためにも、海が元に戻る訳ではないかもしれませんが、少しでも活性化できればということで、やってみる価値があるのかと考えております。

【参加者A】

ある程度、5年、10年経ってもいいので、何か明確に結果が出るような取り組みができれば、とても意味があると思います。例えば、水質を良くするような、植林の取り組みを行ったとして、目に見えて、これが良くなるのではないかということや、昔と比べて、これは圧倒的に悪くなっているといった、比べやすいものはありますでしょうか。

【参加者C】

前浜でのコンブの減少であるとか、温暖化で水温が違うとか、そのあたりが目に見えて出ております。実際に、植樹をしたからといって、コンブが昔みたいに豊富になるかと問われると、私たちが生きている間には、目に見えないかもしれませんが、自分たちの子どもや、孫の世代に向けてと思っております。あくまでも、私たちが生きている間の改善を求めるのではなくて、その先を見ていくことが、私の考えです。

【参加者A】

大事なことであると思います。ちなみに、植林という意味では、森林関係の方からすると、どのような感じなのでしょう。植林を含めて、将来の海を良くしようと思った時に、具体的なやり方として、植林が正しいものであるのでしょうか。例えば、今、管理されていない森林を、上手に間伐し、手入れをしていけば、良くなるようなことがあるのかもしれないのですが、環境や水質に対する活動として、山でやるべきものは、何なのでしょう。

【参加者B】

正直、水質のことについては、あまり考えておりませんでした。おそらく、森林関係の方々も、みんながあまり考えていなかったと思います。やはり、ここ最近、間伐を多くやっていたものですから、皆伐の方に力を入れていかなければいけないのかと思っております。これから、植え付け等も、少しずつ増やしていけたらと思っております。来年度以降の計画でも、植栽が少しずつ増えてきているので、水質と関わるのかわからないのですが、少しでも環境が良くなるように、組合としても努力をしていこうと思っております。

【市長】

やはり、山と海は関係しており、オホーツクでは、雨が降った時に、ホタテが全て死んでしまうということがありましたが、それは、山の泥が海に流れていき、ホタテが窒息したということです。しっかりと山の手入れを行っていなければ、泥が流れ込んでしまい、養殖等に影響が出てしまいます。あわせて、日高の方では、間伐していない木が倒木となり、雨が降った時に、大量に川から海に流れていき、色々なところで事故が起きたことがありました。山の木々は、科学的には、水質についての影響もあるかもしれませんが、事故等を防いでいるものです。そのような意味では、釧路管内では、しっかりと対応していただいていると思っております。また、どうしても農業や水産業と違い、林業の場合は植栽から成長、伐採まで時間がかかるもので、40年、50年、60年とかかりますから、その昔に植林したものが、伐期という、今、切らなければいけない時期を迎えているのですが、切ったものをどこで使うのかという課題があります。今までは、山を整備するために、間伐という形で間引きし、メインを育て、それを活用していこうとしておりましたが、現在は、大量の木材をどのように使っていくかということが課題になっております。まさしく、自然の生態系の中で、Bさんは、仕事をしているということですので、実は、海とも密接に関係しているものと認識しております。

【参加者A】

私たち酪農業界で、最近、一番大きかったことは、家畜の屠場（とじょう）の問題で、唯一あった屠場が閉鎖になり、できれば、管内に作りたかったのですが、色々と問題となっていてできなかったことがあります。その一つの理由として、海に影響を与えてしまうということがあり、漁業関係者から理解を得られなかったということがありました。やはり、屠場が無いということは、私たちにとっては、かなり経費等がプラスになりますので、何とか歩み寄りというか、環境の問題を解決するように協力をした上で、将来的には、屠場も欲しいですし、連携して地域で活動していく取り組みをしていきたいと思います。このような話も含めて、酪農サイド、農業サイドに、何か問題等として聞きたいことはありますか。特に漁業関係の方々で言われたりしていることは、何かありますか。また、このようなことをして欲しいといったことはありますか。

【参加者C】

正直、漁業者の間では、農業のことも、林業のことも、考えている人はいないと思います。今日、お二人とお話できたこともあるのですが、正直、市長にこのような場を開いていただかなければ、一生知らない方々であると思います。海に生きている以上、なかなか機会がありませんので、こういう形で知り合えましたので、何か3人で行うことができるような事業等があればと思います。

【市長】

実際に、このようなことができたらいということがありましたら、市政の中で100%できるかどうかはわかりませんが、進めていけると面白いと思います。やはり、色々行ってみたいということ、どのように進めていくかを考えるのは、我々行政体の知恵です。まちづくりは、こういうことをやりたいという仲間がいて、どのように進めていくかといったやり取りが楽しいものと思います。

【参加者A】

せっかくですので、みんなでお金を出し合って、小規模でも植林を行って、それを動画に撮って 유튜브 にあげてみますか。

【参加者B】

植樹祭という形ができればいいかと思います。場所があるのかどうかということも、問題になってくると思います。

【市長】

音別の奥の方には、そのような場所がありますよね。

【参加者B】

奥の方にはあるのですが、傾斜等が多い場所です。やはり、植樹祭を行うとなると、平地の場所を選ぶと思います。こちらの方面は、傾斜が多いので難しいと思います。

【参加者A】

傾斜であると、植林に向かないということでしょうか。それとも、イベントを行うためには向かないということでしょうか。

【参加者B】

イベントを行うためには向かないです。

【参加者A】

個人的には、デモ的に、イベントを行いたいということはありません。私たちがみんなで行って、写真を撮ってという形ができたと思います。難しいのであれば、お金を出し合って、何か意味のある活動の一つでもやりたいという思いがあります。

【参加者B】

農林水で協力して、植樹祭等ができれば、盛り上がるのではないかと思います。例えば、漁業となりますと、どのようなことができるのかわからないのですが、船を使うとなると、乗る人も限られますし、船酔い等もあると思います。海産物等を買いきていただくということもあると思いますし、そのあたりも考えていけたらと思います。

【市長】

ご存知ないかもしれませんが、以前、農業の牛乳と水産のカキで、ダブルミルクという取り組みがあり、釧路で農業と水産が連携して行っておりました。今、カキについては、東部漁協の方でも試験的に養殖を行っているということですね。

【参加者C】

どうして、釧路には、道の駅がないのでしょうか。

【市長】

道の駅は、阿寒にあるだけです。各自治体に1件ずつといった形で始めていたのですが、うけれども、今は、北海道でもかなりありますね。確かに音別にもないので、今は駅前の拠点センターに道の駅のような機能を持たせようというところであり、道の駅としては、釧路市内には、阿寒の丹頂の里エリアだけとなっています。

【参加者C】

Aさんが農業をやられているので、野菜であるとか魚であるとかを、みんなで出し合うことができると、もっと楽しくなるのではないかと思います。

【参加者A】

売り場ということですね。

【市長】

売り場を確保することは、できないことではないと思います。以前、MOOの中で、地元だけではなく、管内の品物もありましたが、1階の今のバスの待合所の中で、取り組んだこともありました。実施の仕方があるとは思いますが、場所の確保については、やり方があると思います。

【参加者A】

何か商品でということであれば、正直、自分のところは、牛乳の製品はないのですが、もし、共同でものを売るということであれば、個人的には、ふるさと納税をできたらいいかと思っております。具体的なプランはないのですが、ふるさと納税をうまく使って、色々な人たちから買ってもらうということができれば、とてもいいのではないかと思います。釧路は、今、状況的にはどのような感じなのでしょう。過去の印象では、とても力を入れている地域と比べて、ふるさと納税が集まっているというイメージはなかったのですが、どうなのでしょう。

【市長】

ふるさと納税については、しっかりと力を入れていかなければいけないと思っております。大体、昨年と同じぐらいのレベルとなっており、根室市や白糠町、紋別市が非常に伸びている中、本市は、12億円ぐらいとなっております。

【参加者A】

例えば、ふるさと納税向けに、三者連携の商品の詰め合わせとかがいいかもしれません。ホッキと乳製品と、林業には何があるかわからないですが、そのようなもので、若い人たちから、釧路の一次産業の支援にご協力くださいといった感じで、ユーチューブ等で伝えながら売り出せば、ふるさと納税自体がお得であるので、人気が出るかもしれません。もっと言えば、そのお金の一部を植林に使うと、釧路の一次産業が永続的になるよ

うな環境の取り組みに、売上の一部を使いますということを示して、実際に、植林や環境活動を、みんなで取り組んでいる写真や動画を撮って、情報発信をすると、それを見た人がいいねとなって、また商品が売れるといった仕組みができれば、行う意味があると思います。私たちからすれば、売れるものはよつ葉乳業の乳製品等でいいので、新しく作らなくてもセットの詰め合わせにできると思います。そして、その売り上げの一部で、私たちは活動し、地域を守っていきますということ売りすれば、今の時代、意外と商品の値段や差が無くても、うまく発信していけたらいいと思うのですが、どうでしょうか。

【市長】

それは、取り組むことができると思います。今まで、どちらかというと、加工業者側の提案という形であり、よつ葉乳業さんは、根釧牛乳を生産しておりますし、加工品もあります。魚介類は、基本は水産加工品ですが、以前、活ガニを12月に売り出したら、瞬間的に完売したこともありました。新鮮な魚介類にするか、加工品にするか、組み合わせもあると思います。また木材も、知恵を出しながら取り組んでいくということがあると思います。やはり、ここ釧路にしかない特別なものがあると思います。地域のために行っていることを踏まえながら、色々なことができるよう模索していきたいと思ひますし、色々ご提案いただければ、がんばっていきたく思います。

【参加者A】

東部漁協さんの主力として、これを入れてくれたら嬉しいというものはありますか。

【参加者B】

東部漁協としては、サケとコンブが主力です。

【参加者A】

林業は、何かありますかでしょうか。

【参加者B】

特になのですが、あるとしても置物ぐらいです。作るとなれば、技術者等も必要になってくると思います。こちらで設計して作るとなれば、手作り感が出てしまいます。

【参加者A】

このために商品開発をすると、コストも上がりますし、失敗した時にかなりの損失になってしまいますから、今あるものを売り出した方がいいと思います。こういうこともできたらいいですねという、今日はそのような話ですからね。ふるさと納税でもいいですし、クラウドファンディングでもいいと思ひますが、一次産業応援セットを我々で作って、そのような色々なものを買ってもらって、我々3人が農林漁業でやっていくという道筋になれば面白いと思ひます。とりあえず、植林をやってみましょうか。

【市長】

一次産業の応援については、ありえるものと思ひます。特に北海道の一次産業は、魅力的ですし、その産品はすばらしいものですから、このところをバックアップできるような形があるのではないかと思ひます。色々なことで、これはどのようにできるかやってみるのは、いいことであると思ひており、いつも10戦7敗でいいという言い方をしております。色々なことについて10回チャレンジして、7つは負けても仕方がないが、その代わり3つ勝とうということです。3割バッターは厳しいという言い方もありますが、そういうものだと思ひております。特に今は、多様な価値観が出ている時代ですし、みんなが同じ方向に向かうことも違ひますし、色々プランがあれば実行して、何かできればと思ひますので、ぜひとも願ひしたいと思ひます。

皆さん、本当にお忙しい中、ありがとうございます。このようなズームという形でありましたが、今、皆さんが頑張られている取り組みについて、バックアップしていくことが、我々の責任であると思ひております。ぜひ、色々やりたいことを進めていけるよう、一緒に取り組んでいきたいと思ひております。本当に、本日はありがとうございます。